

第18号

昭和48年3月

# 会 報

発行 北海道高等学校  
教育研究会事務局  
札幌市中央区伏見町1872の4  
札幌旭丘高等学校内  
電話 561-1221番

## ご あ い さ つ

大寒に入りさすがに寒さが厳しくなつて参りましたが、会員各位にはいよいよご健勝で本道高校教育にご精進のことと存じ、心からお慶びを申し上げます。

さて、私どもの北海道高等学校教育研究会は、創立十周年を迎え、その記念研究大会を去る1月9日、10日の両日にわたつて開催いたしましたところ、全道各校から3,500名を越えるかつてない多数の会員のご参加を得て極めて盛会裡に終了いたしました。またこれに併せて、本会の発展に寄与された方々の表彰ならびに祝賀会、また十周年記念誌の発刊をいたしました。が、研究会運営ともども不行届の所が多かつたにもかかわらず、会員各位の多くから讃辞を頂戴いたし、衷心からお礼を申し上げます。

今お手許に、この大会の様様を伝える記録の要約をお届けいたしますので、お高覧の上各校の研究と実践に役立てて下さるようお願いいたします。

この十周年を期して、本研究会は今後いつそう研究内容の質の深さと広さをはかつて行きたいと思ひます。このためには、さらに教育の現場と密着してその研究を吸い上げ、研究組織を強化したいと思つています。とくに基盤となる各教科部会ならびに各地区支部の研究活動の拡充強化に努めてゆきたいと思ひますので、会員各位のいつそうのご協力とご援助をお願いいたしましてごあいさつといたします。

今年は第10回北海道高等学校教育研究大会兼創立10周年記念大会でもあったので、例年とは異なり単なる開会式に留まらず、記念式典をも合わせ執り行なつた。開会式及び記念式典の詳細は下記の通り。

(1) 開会の辞 (豊島事務局長)

(2) 挨拶

北海道高等学校教育研究会会長 磯貝芳司氏

北海道高等学校長協会会長 川田正徳氏

(3) 来賓挨拶

北海道教育委員会教育長 山本武氏

札幌市教育委員会教育長 高橋喜敬氏

(4) 功労者表彰

初代会長 梶浦善次氏

二代会長 長瀬米蔵氏

(5) 功労者挨拶

(代表) 梶浦善次氏

(6) 閉式の辞 (豊島事務局長)

## ◎ 日程第一日・全体集会

<全体講演> (午前の部)

(講演要旨)

### 「地球科学と環境問題」

中央公害審議会会長 和達清夫氏  
前 埼玉大学 学長

本日、ここに栄ある研究会にお招き戴きまして講演出来ることを光栄に思います。専攻が地球物理であります故、地球科学の話からしていきます。

古来より宇宙とか地球については、それぞれの時代に種々の認識の仕方があつたが、今日では広大な宇宙、地球の内部まで良く知り得たかという人知の深さに驚きます。ルネッサンスを期としてニュートン、ガリレイが中心となつて科学革命が起り、18世紀の産業革命をへて今日の一つの発見が一産業に結びつくという産業革命となつたが、それは電子工学の発展に負うところが大きい。地球物理もこれに負うところが大きい、特色として、分野での発達でなく、結合して進められる方向である。地球と生物を含めたことが現在問題となつて来ている。地球はどのように誕生したかについても、低温説と高温説があるが、成長過程で高温化し、溶解、凝固していく過程で軽い物が浮かび、これが海洋、大陸等現在の地球が出来上がったとする低温説が有力になつている。当初は窒素、炭酸ガスが主であつたが、植物の発生で酸素が増し動物の出現で又炭酸ガスに変えるという循環を長い年月にして来た。動いている姿を地球の循環というが、全体から見ないとつかめないことで、炭酸ガスについて見ても、大気と海、植物と動物での循環に石炭、石油使用による人工的なものが介入して来た。人間がこの炭酸ガスのバランスを破るのではないかという問題が起きて来た。

人類は地球の45億年の年令に比べて極めて短い時間での出現であるが、この短い時間にやろうとしていることは地球にとって最も重大なことである。言語による情報交換、累積火の使用によつて、生物の中でも特異な存在に発展して来たが、今世紀末には70億に達しようとしている。人間は生物的環境と技術的環境という二つの世界に住んで、これらの接触する中で常に進歩をたどつていく。それもここ20年を見ると加速度的に行なわれて、エネルギー使用も今世紀末では3倍になろう。地球は有限でなり、かけがえない地球(only one earth)である。ここに地球を見直そうとする思考があらわれて来る。

工業国日本にとつても公害問題で世界に有名で、法律にあげられる公害に及ばず、それから発生するもの、思わざる害がめぐりめぐつて我々に及ぼしていることを思いおこさねばならない。汚染が最大の問題になつているが、人口増加、生活水準の向上はあつたにしても、急激な汚染の原因は技術発展にともなう新しい生産活動によると言わねばならない。一例として、農業で数%の増収のために何十倍の肥料、肥料による地下水の汚染でも実証される。

現在の経済が、外部に及ぼす不経済をおりこんだ外部不経済の上に立たねばならない。ここで外部ということが一体どこまでかということが問題になるが、自然では、元に戻す事が不可能な種々のものが捨てられている。地球は健康をそこねているのである。そこで人類にとって基本的な事、これらを総体的に見とおすこと、すなわち、価値観、人生観によつて定まるものであろう。経済の進展、GUPの増大等の目先の利益でなく、自然あるいは地球からの借金された分をどれだけ算定しているかどうか、借金は全て返さねばならぬ、正状な地球でなければ人類は幸せとなれない。当面は再生という人工循環が必要であるが、地球と共に生物が栄えるためには、1つは学問をする。1つは教育が充分なされるということが基本である。そこから価値観、人生観が高まるのである。この意味で、人間環境問題、文明の危機ということは基本的なことであることに思いおこさねばならないのである。

## <全体講演> (午後の部)

### 〔講演要旨〕

#### 「変りゆく日本と教育」

京都大学教授 中村 真一 氏

終戦時、東京の廃墟を眺めながら、今日の日本を夢想だにできなかつた。それ程発展した今日の日本は、経済大国といわれ、それを日本人は誰も疑わない。若い人は今の日本は普通と思つているが、'年輩の人は日本の国を豊かだと思つてであろう。又若い人でも、東南アジアの諸国と比較してみた時、日本の豊かさを認識するであろう。そのように経済は著しく成長してきたが、土地は狭く、人と工場とが密集し、高密度工業社会の性格を帯びて内と外とに大きな問題をかかえている。

日本は経済大国ではあるが、大国としての条件は

1. 軍事力
2. 政治的影響力
3. 経済
4. 科学技術
5. 文化

に優れていなければならない。アメリカ、ソ連は大国である。日本は軍事、政治的影響力は、弱く、経済は大国並み、科学技術は優れているが、外国からの技術導入も大きい。文化の輸入国ではあつても輸出国ではない。このように日本国家はアンバランスである。しかも、アンバランスのまま世界に乗り出していかなければならない。そこには国の内外に多くの問題をかかえている。

国際問題としては、次の点を考慮しなければならない。

1. 世界の中の日本
2. 豊かなアメリカ、ヨーロッパと貧困のアジアとの橋渡し。アジアは日本を必要としている。日本はアジアを助け、引き上げるように協力し、日本の文化をアジアに広めるためには、日本語を教えることが大切である。
3. 日本の国益は、アメリカ、ソ連、ヨーロッパ、アジアの順にかかっている。

(イ) アメリカとソ連は核兵器を持つてゐることを忘れてはならない。

(ロ) 日本は貿易に依存しなければやつていけないし、アメリカ系の経済に制せられている。という点を理解した上で、世界を日本を考えていかなければならない。日本はアメリカがなければ非常に弱く、日米関係はさほどゆるぎないものではないから、日米関係を強力に保つようにしなければならない。

中国との国交正常化で、ソ連と東南アジアとの関係が悪くなつたが、日ソ関係を保つ必要がある。さらに東南アジアで、日本の評判が悪くなつているが、日本人の商業道徳、共同体意識、社会的認識によつて、友好を保つていく必要がある。

#### 「国内問題」について

日本は、大衆社会、高密度工業社会となり、都市に人口が集中し、その結果、日本人の6割近くが都市居住者となつて、故郷なき日本人、郷土なき日本人が生まれ、しかも、人間が住むに不十分な新しい街、ベッドタウンが誕生した。そこには共同体の意識もなく、犯罪の温床となる可能性を十分含んでいる。したがつて共同体意識を保てるよう努力する必要がある。

さらに現代は価値観の多様化をいわれ、本人が好きなら何でもよいというのが現代社会の特色といわれている。しかし、その実体はいいかげんな意見が横行しているにすぎない。社会がある方向に一致していくことが非常にむずかしいが、社会は正しい方向づけによる価値観を持たなければ、独裁者によつて社会が支配される危険をはらんでくる。価値観の大筋は変えてはならないし、本当の価値と人気とを弁別し、真の価値を認識する必要がある。教育のむずかしさは、本当の価値を教え、より美しく、より高く、より優れたものを教えることにある。伝統的芸術、オーソドックスな伝統が価値あるものである。アメリカが退廃したのは、宗教家、教育家が負けたからである。ナショナリズムが退廃してきていることが、教育をむずかしくしている。身近にしつかりした目標を立て、国語や国家の基盤をしつかりさせないと日本はよくなる。

また、日本の文化をアジアの中に根強く広がるように、青少年の努力をうながす必要がある。

## ◎ 日程第二日・部会別集会

### < 国語部会 >

—主題—現代国語の教材研究

#### < 研究発表 >

- ① 「現代国語におけるデス学習・コミュニケーション授業の提案」 室蘭啓明 小笠原 治 嘉  
困難な現代国語の授業を生き生きと展開し、生徒の感性を育てていくにはどうしたらよいかという問題意識から、実践家齊藤喜博氏の理論のうち、特に「授業における集団討議の重視」という点を、「小説」指導の中にとり入れ、集団討議を通して、解釈鑑賞させ、集団の中で感性を育てようとした過去5年間の実践をV、T、R等を通して報告され、ディスカッション学習という教授法を提案された。
- ② 「詩の教材研究—実業高校における実践報告」 函館工業 佐藤 健 蔵  
国語学習の必要性を感じながらも、学習意欲を持ってない実業高校生に、現代国語をどのように教えるかという問題意識から、生活意識・読書傾向等の調査結果を発表され、実業高校における国語教師の姿勢を考えるとともに「感じる」「おもしろい」授業の必要性を指摘された。さらに上記の観点から「朗読」と「感想文」を中心とした詩教材の取り扱い方を発表された。
- ③ 「俳句の教材研究—正岡子規を中心に—」 札幌啓成 川 治 静 信  
俳句指導にあたって、周到な教材研究が必要であることを説かれ、読解鑑賞上の留意点として「作者の境涯を踏まえねばならない」という観点から、子規の俳句開眼の過程、芭蕉や蕪村に対する評価、さらに写生説等に関する教材研究の成果を発表された。特に「写生」の意味を追求され、日頃の実践に生かす「教材研究」の一つのあり方を示された。
- ④ 「指導要領と教科書の間隙を埋める—試案」 小樽桜陽 新 開 成 敬  
講義一辺倒に陥りやすい現代国語の授業を、生徒自身が読み、考え、問う授業にするために教科書にとらわれることなく、他の教材を活用するよう提案され、その一例として身近な新聞記事を教材として取り上げ、内容の要約、タイトルの設定、キーワードの指摘、感想文などを通して、生徒の言語生活の向上、自己表現力の養成等を計るべきであると説かれた。

#### < 講演 >

「現代国語の教材研究—言語と文学—」(要旨) お茶の水女子大学教授 外山 滋比古 氏

従来言語は人間の特権だと考えられてきたが、いまや外国語学習が機械によつてなされるようになり、言語は最も科学的・数学的分野に属するものとなつた。言語を最も新鮮な目で見つめているのは数学者であり、心理学者である。国語教師も従来の言語観に目をおおわれることなく「言語と人間」の問題を真剣に考えるべきであり、与えられたものを機械的に復元する小型コンピュータの生徒を良しとする国語教育を反省すべきである。

ところで、言語は人間の行動様式、心理現象を規制する。日本人らしさは日本語自体の持つ力によつてつくられる。島国で、一民族・一言語という条件の下で独自の発達を遂げてきた日本語のプラス面を国語教育は発見していくべきである。それには、古典と現代国語・語学者と文学者、方言と標準語等の日本語の分裂現象を統一し、新しい日本語、新しい文化を創造するような国語教育であらねばならない。

また現在の国語教育は一字一句を逐うように極めて分析的になつている。それはことばの命を縮めるもので、今後は単語やセンテンスを重視する方法から、もつと大きな単位に統一して読解をしていくような教育でなければならないと思う。

## <社会部会—倫理・社会分科会>

### <講演>

#### 「高校生の道徳性育成について」<要旨>

札幌聖心女学院高校長 三上十喜子氏

高等学校の道徳教育とは精神生活をより豊かにし、道徳をより内面化することにある。高等学校においては、指導として、訓練と動機づけがあると思うが、大切なことは動機づけである。この動機づけは、「～しなければならないからする」というのではなく、「～だからする」というところまで高めていかなければならない。今の生徒は、個人で指導をうけるということより、集団でうけるという意識が強く働いている。そのため、個人としての触れあいを大切にし、生徒と生徒（友人）・生徒と教師、いわゆる人と人との触れあいを通して「人」となっていくために意図的に指導することが大切である。こうした考えにもとづき、聖心女学院では、生徒に自主性をもたせ、学校教育全体の中で道徳教育を行なっている。そして、この教育の柱となるものは「愛」であり、「愛」とは自己を完成させていくことなのである。そのため人間教育の中味は、この精神的エネルギーとしての「愛」を燃やすことにあるという立場にたち効果をあげられていることが述べられた。

### <研究発表I>

#### 「人類愛指導の視点についての一考察

##### —国際理解教育の立場から—

室蘭清水丘 前田博富

戦争、核兵器の恐怖等の現代的状況から、人類愛は、さしせまつた問題としてあげられる。指導として、人類の危機をとりあげ、現実における人類愛の課題はなにかというところまで深めていかなければならない。すなわち、人類愛をたんに先哲の思想というだけではなく、人類共通の課題としてとらえ、国際理解、国際協調、国際平和へと発展させていかなければならない。以上の観点にたち、人類愛を倫理の核としてとらえ、国際理解教育の視点から人類愛指導について考察。

### <研究発表II>

#### 「生徒の道徳性を涵養するにはどうしたらよいか」

三笠高美 渡部 満

道徳性の涵養はあらゆる機会になされるものであり、学校がうけもつ役割は、その性格においてはつきりと計画的、体系的、知的等としてあると思う。その意味で道徳性とその柱となるものを定めておき、道徳教育目標の推進をせねばならない。柱を全人的なものとして憲法におき、そこから要求される内容へ到達させる力を道徳性とみ、これに計画的に系統的に肉づけをする構造として行動および性格の記録の各評定項目をあててみたい。その故に「倫・社」のうけもつ分野として、道徳教育の深化・統合・補充となり、他の分野における教育活動の中に各評定項目における指導助言の道徳性の育成が考えられると思う。

### <研究発表III>

#### 「高校生の道徳性を高めるために」

遠軽 佐藤 昌

教師は道徳的な側面のごく一部しか接触しえない面がある。「倫・社」の教科を通じて、表面的な事例ではなく、生徒の道徳性の実質面に影響を与えている事情を良く調査し、認識した上で、生徒の緊迫した切実な問題として諸テーマをとらえていく必要がある。「倫・社」が生き方の理論づけである以上、抽象的な説明が多いのは止むを得ないが、重要なことは「高度のより完全なもの」をめざすよりは、生徒に良く判らせ、考えさせ、生き方について生徒の経験思考を理論づけ、またそのきつかけをつくり、「人間としてのあり方」を追い求める手助けを不断の努力（教師の知的徳性の高揚）によつて行なうことではなからうか。

### <研究発表IV>

#### 「『倫・社』における『道徳』規定とは」

瀬棚 桜井 芳徳

過去、「倫・社」指導の歩みは、その過程はさきに迂余曲折であつたといえる。最近、ようやく内容深化

をはかるときに“新指要”の改訂に到来した。その内容の重みとして道德教育の強化が叫ばれている。しかし「倫・社」を追求すればするほど教師がみずから生徒の前で逆立ちすることを通して、誠実に且つ、裸となるべきことが一方では要請されているのではないであろうか。にもかかわらず道德という徳目主義的色彩をおびた内容を前面にうちだすことは矛盾するのではなからうか。そう考えたとき、倫・社の社会科学としての教科の位置づけを迫られるだろうし、生徒を社会と歴史とから切り離し考える徳目に終始させることがあつてはならないであろう。

以上4人の先生の発表のあと討議に入り、柱として「倫・社」と「道德」、「道德性の養い方」という2つのテーマにしぼり、活発な意見交換が行なわれた。その結果、「倫・社」はあくまでも社会科の一科目であるということが前提であるが、目的自体が道德教育と一致しており、「倫・社」は道德教育を担わされている科目であるといえる。特に高校生の発達段階から考えて価値観を再構成する段階であり、ここにおいて理論的な支柱を与えていくべき教科でもあり、その意味から生徒と共に教師も高まつていく謙虚な姿勢が大切であるという論に集約されたようである。さらに「倫・社」指導の反省として、指導の固定化ということがあげられ、高度な知的なものをとりあげていくことよりも、他教科にみられない泥くささがあつてもよい時間ではなからうかということがつけ加えられた。

### <社会部会—政治・経済分科会>

#### <研究発表I>

##### 「国際経済をどう指導するか」

長万部 田丸 武彦

国際経済は近年とみに脚光を浴び、時事的価値も高いが、年間計画上では、「国際」単元で、3時間程度の取扱いとなる。

従つて、内容を精選し、指導の重点を、「現状と課題」におく、こゝでは、①東西関係の接近 ②地域的経済統合の動き ③南北問題 という3つの視点から、これらが国際平和に及ぼす影響等を考えさせたい。

#### <研究発表II>

##### 「円の切上げと北海道の灯油価格」

深川西 三田村 静夫

改訂学習指導要領では、国際経済は、目標を、「産業経済の急激な変化発展および日本経済の国際化など時代の進展を背景として、日本経済の特質と問題点をとを総合的に理解させる。」におき、「日本の経済と国民福祉」の中に再編成された。この観点から、生きた経済・変化する経済をということを念頭におき、「円の切上げと北海道の灯油価格」をとりあげてみた。指導の重点を ①日本経済の国際化 ②物価と消費者保護 ③北海道価格 の3つにおきたい。

討論は、司会者から示された内容に両先生の発表を織り込み、活発に進められた。

その概要は、つぎのとおりである。

1. 新指導要領では、国際経済を「国民のための経済」という視点で、「生きた経済」として取扱うべきである。
2. 中学校との関連を重視し、指導内容の精選につとめ、また、関連教材を適切に組合わせて行きたい。(例：金融機関のところで、外国為替・国際収支・黒字問題・通貨体制を扱う)など
3. 高度の理論追求は行なうべきでない。とにかく、日本経済が、国際経済の中で、いかなる役割を果しているかを理解させたい。
4. 基本的な原理・法則は、きちんと把握させ、将来、生徒の問題解決に役立たせたい。
5. topical な問題は、基本事項の学習後に取扱うべきである。
6. 年度頭初、生徒にテーマを課し、1年間その様子を追わせてみたい。

#### <講演>

##### 「南北問題と日本の経済協力」

早稲田大学助教授 西川 潤 氏

「従来は東西の対立、今後は南北の問題」(1959年、ロイド銀行頭取)と提唱されたが、60年代に

入つて熱帯・亜熱帯に位置するかつての植民地の国々を「開発途上国」(developing countries)と呼び、国際経済上「南北問題」の当事国として重要視されることになった。中立非同盟主義をとるこれら諸国は、1972年UNCTAD第3回総会で、60年代の経済理論—ブレビッシュ理論の修正をせまり、かつそれが確認された。

日本の立場としては、これら「開発途上国」とは、いわゆる企業の理論—これは、反日感情を高める原因となつていたが、—で接することのないよう心掛けるべきであろう。すなわち

- ① 援助の仕方を反省すべきである。公的援助を主とし、GNPの1%程度とする。
- ② 援助対象地域の拡大をはかつて行く。
- ③ アメリカ市場一辺倒を反省し、経済の自立をはかり、グローバルな方向に進む。(すなわち、グローバルなものを保証する機関を強めるような方策に協力を惜しまない。)
- ④ 従来の発展路線であつた重化学工業中心主義を廃し、資源の配分を国民消費の方向に進め、生活関連資本の投資(社会資本の充実)中心に変更すべきである。

## < 社会部会—日本史分科会 >

〔主題〕「社会科教育の現代化とその方向」

<共通課題>昭和史をどう指導するか

<研究発表要旨>

「軍部の政治的進出について」

釧路湖陵 久保田 攻

昭和初期における軍部の政治的進出については、内政・外交上の失敗と政党政治の腐敗墮落などにその原因があるのであるが、他方一夕会の結成など昭和軍閥の形成過程をみてゆくと軍部台頭の要因は、すでに軍内部に内在していたといえる。従つて満州事変以後具体的に進展するファシズム体制の歴史的評価に当つては大日本帝国憲法の押え方も含めてこの面からも考察を進め慎重に捉えてゆく必要がある。

「戦時体制取り扱ひの一例」

旭川藤 武山 桂子

戦後史の指導には主として①主題の設定と時間配分をどうするかという問題 ②豊富で雑多な資料情報の中から何をどう取り上げたらよいかという問題がある。とりわけ後者については、様々な価値判断に基く資料情報の洪水の中で教師生徒共方向を見失う危険性も多い。この困難を解決する為にはかかる資料に対する一定の視座からの枠組が予め必要である。ここに「戦時下の経済と国民生活」の授業展開例を提示する。

本単元の展開に当つては①満州事変後の軍事経済 ②戦時下の国民生活 ③朝鮮人強制連行、以上3つの主題を設けた。①については種々の経済統計を用いて主として独占資本と国家の癒着の形成をみ、②では労働力動員の実態の中から戦時経済動員による国民生活の破壊を考え、③では朝鮮民衆の体験を通して戦争の遂行を正当化していつた大東亜共栄圏の実態を捉えさせたい。

<研究討議の概要>

討議は主として昭和史を指導する時間の問題に集中し、①年間指導計画において昭和史が位置づけられていなければならないこと。②受験指導の絡みから脱して本来のねらいに即して展開すべきであること。③関連他教科との連けが特に必要であることなどが提言された。次いで昭和史の何をどう指導するかという内容上の問題については、一、二の具体的発言があつたに止り、高校教育準義務化の傾向や生涯教育の観点からも、これらの問題については今後より豊富な研究と実践例をもつべきことが指摘された。

「見えてくるものの<歴史>」

(講演要旨)

藤女子大学助教授 小笠原 克氏

このたびの集會に、歴史部門の講演を頼まれ、場違いの感じであつたが、昭和の、歴史と文学に関して複雑な話をさせていただいた。

私は、見えるもの、見えないもの、見えてくるもの、という言葉 키워ドとしながら、歴史とは——歴史を読み・感じ・考えるための欠かせぬ契機として——見えてくるものの歴史でなければなるまい。ということ念頭に置いていた。このことは、私にとって自明の理であり、それゆえにこそ至難な実践課題なのだ



承知している。

そのことを、昭和8、9年に、官憲の手で虐殺された小林多喜二・西田信春・野呂栄太郎という、いずれも北海道出身者といつてよい3人の共産主義者に触れながら、むしろ、彼らの、残された肉親たちの心情の次元に即して語った。

多喜二の母と姉は、戦争中、アカの息子を生んだ母、不忠者の姉として、身を縮めて生きた。戦死した人に較べれば、かりにも葬式ができたんだし、遺体を撫でさすりもできたんだから喜ばねばならないね——。そして戦後、彼女らは殉教者・英雄の母姉としていたわれる。だが、姉は今なお、つらくて弟の作品が読めぬという。母は、殺された月になると、声はりあげて泣きたい。だが泣かれない、と耐え忍ぶ。

私どもは、肉親よりも“年譜的事実”にくわしく、多喜二全集も平気で読める、そこに知的退廃はないか、ということこそ知らねばならぬ、見えていることに安住しているかぎり、歴史はけつして見えてこない—そんなことを語った。

これらの問題を、『西田信春追憶・書簡』（土筆社）や、口はぼつたい言い草ながら、拙者『＜日本＞へ架ける橋—北海道にて—』（辺境社=勤草書房）で辿つていただきたいと願う。

## <社会部会—世界史分科会>

### I 研究発表

#### (A) 「19世紀近代の世界史像を求めて—グローバルに捉えるための—工夫—」

稚内商工 古木 博

グローバルに捉えるための視点は、従来のようにヨーロッパを中心に、それに対する受身の対応としてのアジア、アフリカ及びラテンアメリカをみるのではなく、ヨーロッパと後進諸国との間の有機的な関係を追求するものでなくてはならない。

授業展開のための工夫として、「帝国主義時代」以前の19世紀を「世界資本主義の形成」というグローバルな立場でとらえ、その見返りが一方では「自由主義・国民主義の発達」と結びつき、他方では「アジアの従属化」という現実を生み出した点に注意させたい。

この場合、イギリスの経済体制を中心としながら、世界資本主義の①30—50年代の生成 ②50—70年代の成立 ③70年代の確立・爛熟という3つの図解を参考にし、各地域ごとの動向をみていく方法を提示された。

#### (B) 「植民地主義の進出と民族運動の発生について—資料利用についての試み—」

雄武 板垣 隆 昭

教科書の近代：アジア諸国の情勢を植民地主義の進出と民族運動の発生と再構成する。

生徒にできるだけ具体的・実感的に歴史を捉えさせたいので、世界史学習ノートとして配布する自作の文献資料とTP用プリントに立脚して、OHPのもつ集中性・時間性・図式性を活用していく方法をとる。具体的に(3)イギリスの中国侵略とアヘン戦争について、豊富な資料とOHPを利用して提示された。

### II <講演>

#### 「19世紀のナショナリズムの問題」

北海道大学法学部教授 矢田 俊 隆 氏

#### (1) 近代ナショナリズムの特色

ナショナリズムは、本来エモーショナルな弾力性に富んだものであり、簡潔に定義づければ、自分達の民族を意識して他から区別していく意欲をさす。歴史上の形として4つに分類できる。①民族が政治的に分裂しているため、国家的統一をめざす（国民主義） ②国際的に主権がないため、政治的独立、解放を要求する（民族主義） ③統一・独立を達成している場合、内部で支配者と被支配者の間の差別をなくし、政治を全国民的なものとする（自由主義・民主主義と同じ） ④資本主義の発達が強固なものとなり、他国に向つて拡大、発展していく（国家主義）。

#### (2) 19世紀ナショナリズムの展開

1815年から1914年について考え、1870年ごろを境に分ける。1848年までは、ナショナリズムは自由主義と固く結びつくが、それ以後は、社会主義勢力の台頭、先進諸国の圧力への対抗などが

特色となる。1870年以後は、東欧に起つてくる民族の独立・解放運動が特に目をひく。

### (3) 東欧のナショナリズムの問題

東欧は、独逸に西を、東をソ連にはさまれた地域としてみる。地形、民族、宗教、文化など多様性を持ち、歴史上、領土問題と民族問題が古くから共通してあり、また西欧とロシアとの二つの巨大地域の間で、安定した平和をいつも妨げられてきた。

### (4) 東欧の19世紀以後のナショナリズム

露・独・奥・土の四大国の支配下であり、特に汎スラブ主義と汎ゲルマン主義の対立が激しかった。小国は列強の手先として操作されることが多く、偏狭なナショナリズムにおちいりやすかった。

第一次大戦後、東欧の小国はすべて独立したが、歴史的問題点はいぜんとして残り、英米仏はボルシェヴィズムへの防壁とみなし、ソ連は安全保障の手だてとした。

第二次大戦後、地主制の撤廃、国境の調整もあつたが、経済開発は必ずしも順調でなく、いぜんとして二大勢力にはさまれた小国群は、ソ連と対立しない国内安定化が大きな課題となつている。ナショナリズムは、内部の自然発生だけでなく、国際的な大国と小国の関係において理解することが大切であろう。

## <社会部会—地理分科会>

午前は統一テーマ「社会科教育の現代化とその方向」にそつて設定した「北海道の過疎・過密について」をシンポジウム形式で提言・討論を展開した。午後は「東南アジアの地誌について」と題し：沢田清日本大学教授の講演があつた。

### <提言I>

「漁村における過疎問題について」

岩内前田 義

漁村における過疎問題を後志・泊村の現状報告の形で提言したもの。ニシンの凶漁、炭鉱閉山にともなう人口激減と炭鉱施設跡地利用や原子力発電所誘致など現代的問題を内含した対策に村ぐるみで取りくむ努力の姿が浮きぼりにされ、提示された。これを教材化するのが今後の課題とされた。

### <提言II>

「地方鉱山都市における過疎問題について」

夕張南 佐々木 隆之

石炭産業に密着依存して発展してきた夕張市の石炭産業不況と閉山に伴なう人口激減と市財政悪化。過疎の歯止め対策としての都市計画の策定—交通上の不利を克服して、あくまでも石炭産業を基盤にしながらも新しい街づくりを目指す夕張市の現状報告である。

### <提言III>

「大都市における過密問題について」

札幌北 内田 隆

高度成長期における急激な人口増加と転入出の特徴、人口集中にともなう諸問題の提記と早急な対策実施の必要性を提言したものである。(過密は札幌市だけ)

以上3つの提言をもとに各地の過疎の実態が報告され、ついで来年度の地理A、Bの選択状況の情報交換がなされた。最後に助言者の先生がたのまとめを要約すると、過疎・過密の問題はさらに研究を積み重ねていくべきである。過疎とは何かをきちんと把握してかかる必要がある。単に人口減少面だけで捉えるのではなく、過疎によつて行政機能が低下したり、土地生産などもその要素となろう。

地理A、Bともそれぞれの特色を生かす工夫が望まれる。地理Aに関してはどういう性格を持たせ、位置づけていくか。地理Bでは取り組みかたの選択によつて教師の持ち味を生かしていく工夫などである。AとBの選択に関しては西日本を中心にAで様子を見るところ、長野県のようにAの多いところ、東京・北海道のようにBの多いところ等さまざまである。

〔講演〕

「東南アジアの地誌について」(要旨)

日本大学教授 沢田 清氏

地誌学習の要は系統地理の農業地域、工業地域としての把握ではなく、地域から農業、工業を考え、他との関連を理解することであり、生活の中から自然を導き出すことにある。東南アジアの地誌についてもこの観点から、どう扱うべきかを考えてみる必要がある。その1、2を例示すると。

- 1) 農業について、タイの米作における自然環境は実際にはわが国より不適なものでありタイ人の怠惰とするのは行き過ぎである。
- 2) 工業について、東南アジアにおける工業化は完全雇用と外貨獲得をねらいとしているため、各国が高関税の壁で自国工業を保護していて、自ら国内消費を指向する小規模工業の域をお互いに脱しえない状況下にある。
- 3) 文化と生活の関連について、宗教と民族の問題が国民生活の大きな障害となつている。マレーシアでは、マレー人、中国人、インド人の数的バランスが各方面に要求され、加えて宗教の違いが統一ある国民生活を阻害している面も大きい。また植民地時代の旧宗主国の文化的影響の大きさも見逃がせない。などのことが指摘される。

地誌的知識には現地での見聞による裏うちが必要であり、生活のなかから法則性を見出す努力が大切である。

<数 学 部 会>

<講演>

「新指導要領と数学教育」

東京工業大学教授 大槻 富之助氏

教科書の編集者という立場から、新指導要領について、現場で工夫、補充し、どのように指導したらよいかについて述べて見たい。

例1、写像とグラフ

現在はグラフを重視しているが、新指導要領では集合を重視している。直観と論理のちがいであるが、直観は思考の能率をよくする。写像のグラフ(関数のグラフも含む)

$$f: M \rightarrow N \quad M \times N = \{ (x, y) \mid x \in M, y \in N \}$$

$$A \cup = \{ (x, f(x)) \mid x \in M \}$$

直積:  $R^2 = R \times R$  の例の具体的なものとして、直円柱 = 円板  $\times$  I (区間)

例2、平面図形と式

だ円  $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ 、 $xy = k$  のグラフをかく程度にとどめる。となつているが、2次曲線は生徒に

興味ある素材である。だ円は、円  $x^2 + y^2 = a^2$  に、 $x' = x$ 、 $y' = \frac{b}{a}y$  なる1次変換を行なうことにより得られる。初等幾何より2次曲線をやつた方がよい。

例3、集合と論証

集合の和、積  $A \cup B$ 、 $A \cap B$  と対応して、論理の  $a$  又は  $b$ 、 $a$  かつ  $b$  を  $a \vee b$ 、 $a \wedge b$  なる論理記号  $\vee$ 、 $\wedge$  を用いると便利である。

例4、行列

行列の乘法について、 $2 \times 2$  行列の乘法と制限されている。これ以外のものも扱える方法

$$A = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{pmatrix}, B = \begin{pmatrix} b_{11} & b_{12} \\ b_{21} & b_{22} \end{pmatrix}$$

$$C = \begin{pmatrix} c_{11} & c_{12} \\ c_{21} & c_{22} \end{pmatrix} \quad C_{ij} = \sum_{k=1}^2 a_{ik} \cdot b_{kj}$$

$$X_1 = (a_{11}, a_{12}), X_2 = (a_{21}, a_{22}), Y_1 = \begin{pmatrix} b_{11} \\ b_{21} \end{pmatrix}, Y_2 = \begin{pmatrix} b_{12} \\ b_{22} \end{pmatrix}$$

ベクトルの内積は3次元までやっている。

$$C = A \cdot B = \begin{pmatrix} X_1 & Y_1, & X_1 & Y_2 \\ X_2 & Y_1, & X_2 & Y_2 \end{pmatrix}$$

#### 例5、電子計算機

数学の研究方法も変わつて来ている。理論的な裏づけを計算機で数値計算することにより得る。計算機を教えることにより、数学の根本思想である。自由な発想を身につけさせればよい。

#### <研究発表>

##### ① 「数学の学習と記号論理」

室蘭栄 船場 幸彦

教科書には、 $\forall$ 、 $\wedge$ 、 $\forall x$ 、 $\exists x$ などの記号が用いられていないが、「かつ」、「または」、「ならば」などを日常語より明確に使うために、また複雑な関係を理解させるのに役立つために、これらの記号を用いることは有効ではないかという立場から、数Ⅰの教材の中からひろつて、記号論理を導入し、実践した。

##### ② 「季節定時制における数学の学習指導」

中札内 井上 輝信

季節定時制として、種々の悩み、問題を抱え、その中でいかにして生徒の学習意欲を向上させ、理解度を高めるかを常に考え、学習指導法を工夫している。その一方法として、学習プログラムを使用し、グループ学習を実践している。

##### ③ 「アルゴリズムの取扱いについて」

弟子屈 今西 義紀

新指導要領では、数ⅡBにおいては、適切な事項に関連してアルゴリズムを取扱うことになっている。その指導の方法の試みと実践報告である。

(部会総会)

1. 今年度の数学部会の会計報告
2. 来年度のテーマについて

「新指導要領の研究と実践」とする。

#### <理科部会—物理分科会>

#### <研究発表1>

「波動の実際に関する一考察」

小樽潮陵 山野 拓二

波動の実験に於ては、種々の波の相互の関連性を理解させ、正常波の出来方や、進行波の反射の仕方に於ける位相を中間設定として、反射の条件へとまとめる。これらの関係から種々の波動現象が理解されるのではないか。

#### <質疑応答>

助言者の秋山先生より、波動をエネルギーの伝達形態として教えることが必要であるが、あまりむずかしいことは教えない方がよい。取扱い方を明確にした方がよい。との助言があつた。

#### <研究発表2>

「物理Ⅱ教科書について」

寿都 伊川 広義

慣性モーメント、角運動量を中心に、6社の教科書の内容及び取扱い方を比べる。

#### <質疑応答>

助言者の武部先生より、慣性モーメントは、量子力学への導入のため新しく入ってきたのではないか。教科書の内容もよく精選して教えてはとの助言があつた。

### <研究発表3>

#### 「慣性モーメントの展開例」

小樽潮陵 石塚 善朗

慣性モーメントの展開例として、自作の装置を使い、生徒実験をした結果について発表された。

#### <質疑応答>

秋山先生より、慣性モーメントについては、実際に生徒実験をさせた展開例は少ない。これで終らず、さらに改良、工夫されて、再度、発表してほしいとの発言があつた。

#### <研究協議>

##### 「新旧理科教育課程の分析と今後のあり方」

教育課程研究札幌グループの坂田一昭先生(開成)から、「教育課程における理科の設置状況とその分析」と題する調査資料の解説があり、協議題が提案された。これは、昭和48年度の指導要領の改訂に基づいて、道内の各高等学校で編成された教育課程の分析を通し、その問題点を明らかにしたものである。

全日制普通科については5項目44の分析結果が述べられた。その中からいくつか取り上げると、①基礎理科が設置されていない。②理科Ⅰは100%近く設置されている。③約80%の学校が理科Ⅱを3~4科目設置している。④コース制を設けている学校は50%である。⑤小規模校では最小、最大単位数ともに現行より減少している所が多い。等である。

職業科については、旧教育課程を踏襲していること。物理Ⅱの履習校がないこと。又、私立高校については、郡部小規模校の設置状況と類似していること。等である。

今後のあり方について、最初に、基礎理科の必要性が問題とされた。助言者の武部先生より、自然界を全体的にながめていく上での基礎理科のもつ意味について、又、Ⅰ、Ⅱを全部やるには時間的な制約があること等について話された。更に、池田先生(札工)から、基礎としての行き方と、総合的なものとしての行き方の2通りがあるのではないか。したがって、その位置づけを明らかにすることが必要であるとの提言があつた。次いで、4教科必修の是非が取り上げられたが、理科全体としての立場から今後継続して研究を深めていくことに意見が一致した。最後に、助言者の秋山先生から、全道の理科教師が理科をどう考えるかという意識調査がほしいこと。今こそ、グローバルな見方をできる子供達の育成がなによりも大切であること。そして、教科としての物理の重要性についての貴重な意見が述べられた。

又、教育課程研究グループへの参加の呼びかけ(名簿記入)があり、北理研の川井先生から、共同研究の必要性と48年度全国理化学教育大会(札幌)への協力依頼があつた。

### <理科部会—化学分科会>

#### <研究発表>

##### ① 教育課程における理科の設置状況とその分析」

教育課程研究札幌グループ

昭和48年度の指導要領の改訂に基づいて、北海道の各高等学校で編成された教育課程の調査資料及び分析からその問題点が発表された。

##### ② 「化学のプログラム学習における一考察」

沼田高 根 岸 繁 夫

プログラム学習の特徴である自動制御しながら、各フレームを進めてゆくことにより、①学習の定着率をより高め、②自発性を育て、③机間巡視により個人指導ができる。また④生徒が理解し難い点・間違い易い点を把握し指導の改善に役立てる。など学習効果をあげることができた。しかしプログラム化するためには多くの時間と労力が必要となり、こんご共同の教材研究や関係研究機関との連携をとりながら研究開発をしたい。

### ③ 「定時制高校における化学指導について定時制生徒の化学的学力の実態〔I〕」

札幌定時制化学研究グループ

定時制生徒の化学指導に当つて、最低どれだけの内容を指導しなければならないか、という観点より共同研究をしてきた。今回は生徒が小学校段階の化学(理科)がどの程度、理解され定着しているかを調査し、その中から学習指導上の問題点を見出そうとして試みたものである。

#### ④ 「薄層クロマトグラフィーを用いた生徒実験について」

小樽汐陵 増谷 龍三

クロマトグラフィーは、ペーパークロマトグラフィーに比べ準備に時間と手数がかかり、Rf値の再現性に乏しい欠点があるが、分析時間が短く、スポットも鮮明で、かつ腐食性の発色剤を用いることができるなどの利点がある。しかし市販のTLC実験器具、プレートなどはいずれも高価で、生徒実験にはなかなか取入れ難いのが実情である。

こうした点を考慮し、ミニプレートを用いたTLCによる分析実験を探索した。この分析法は50分で6~8種類程度の金属が検出でき、生徒に未知物質から物質を検出というよろこびを感じさせ、より多くの興味をもたしたようである。

#### ⑤ 「有機化合物の構造推定について」

留辺薬 高木 幸雄

実験を通して有機化合物(炭素化合物)の物性と構造の関係をできるだけ理論的に考えさせようという、ねらいのもとに、12項目をもうけて実験することを試みた。

しかしこの事については未解決の部分もあり更に継続研究をし、より充実したものになりたい。

最後に助言者の大石博先生(理科センター)より、今回の研究発表は①学習指導に力点がおかれたこと②グループでの研究がなされたこと③新しい素材に目が向けられていたということで、今までにない大きな成果が得られたものと感じた。これからは個人の研究のみで終らず、共同で研究しあつて実を挙げてゆかなくてはならないだろう。との講評及び感想があつた。

## <理科部会—生物分科会>

### <テーマ>「課題実験について—遺伝教材の一例—」

#### I 発表内容

実験題「キイロシヨウジョウバエの交配実験(伴性遺伝を主とする)」

- ねらい
1. 観測値から理論値を推測する手法を練習する。
  2. グループ実験における個人の役割を自覚させる。
  3. 直接解決困難な結果についての処理方法を考えさせる。

材 料 キイロシヨウジョウバエ(*Drosophila melanogaster*)の赤眼と白眼の各純系  
器 具 飼育用管ピン、培養基、解剖顕微鏡

- 方 法
1. 実験を4段階に分けて実施
    - 1) 雌雄の鑑別練習 2時間
    - 2) F<sub>1</sub>の作出 2 "
    - 3) F<sub>2</sub>の作出 1 "
    - 4) 結果の処理 3 "

#### 2. 実験形態

1グループで実施、ただし結果の処理は全員

上記の方法で6週間にわたり継続的に実験をした結果、次のような問題点がでた。

1. 3年10組(理数科)の生徒は1年の段階で遺伝の理論は終つているので理論通りの結果がえられないと「失敗した」としてしまふ者が多い。これは新事実をみきわめようとする時、あるいは研究の過程を重視する時最も障害になることである。
2. 全体討論で注目すべき意見が出るがその後個々のレポートにはそれらの意見がほとんど実を結んでいない。

3. この種の実験を実施するとすれば指導者がシヨウジヨウバエについて形態・生理・発生などでかなり専門的な技能や知識を身につけなければならない。

## II 討 議

### 1. 実験内容について

シヨウジヨウバエの飼育管理についての質問が多くだされ、たとえば誰が飼育しているとか、クラブも飼育に参加しているとか、恒温器の使用の有無、飼育に適した温度・湿度などが質問された。これに対し野坂先生から以前はよくクラブで飼育したが現在は飼育していないこと。従つて準備室で飼育しているなどの話があり、さらに助言者から飼育の適温は25度C位、湿度は65~70%が最適で、羽化の性比は最終的には1対1になるが、最初の2日位は雌の羽化が多く、その後で雄の羽化が多くなるなどの助言がなされた。

### 2. 実験結果について

- 1) 今後 $X^2$ -検定を利用しての実験結果の処理を考えるべきである。現在のところ北理研実験書の指導書に $X^2$ -検定の解説があるだけである。
  - 2) 教材の多目的使用ということで、シヨウジヨウバエの雌雄の鑑別の他に、形態・生理・発生などの実験を考え、実験動物の活用範囲の拡大をはかる。
  - 3) シヨウジヨウバエ以外にもつと身近なもので遺伝実験の材料を検討していくべきである。たとえばカイコとか、トウモロコシを使つた実験も考えていくべきではないか等の話があつた。
- III この発表討議のあとで野坂先生(札幌成)から先生が多年研究されている高山植物ツガザクラの分類について、スライドを折りまぜての興味深い解説があつた。

## <理科部会—地学分科会>

部会運営よりの連絡 1.理化学全国大会参加案内と、地学部会運営方針について。 2.地学実習帳の内容と、価格について。

### <研究発表1>

「教育課程における理科の設置状況とその分析」

札幌北 高柳良直

この内容は、札幌地区の教育課程研究グループ共同発表である。研究目標は、昭和48年度の指導要領の改訂にもとずき、北海道の高等学校の理科はどのような傾向になつたか、を知ることにある。基礎理科の設置がない、又地学Iの履修は都市部95%、郡部では72%、又大規模校100%、中規模校83%である。地学IIの履修は都市部55%、郡部22%などの数字がみられ、この内容を更に深く各方向からみてみた表をつくり考察している。

これから問題点をいくつか列挙して、これから更に、研究を進めていくように結んでいる。これに加えて、定時制、職業課程、私立高校と、各分野にわたり集約し、分析してあつた。この発表後討論。尾尻先生、岡田先生から、地学教育の今後の進め方をもう1回原点にかえり、考えなおし、理科の基礎、好かれる学問にしていかなければならない。

古谷先生から、地学履修と教員の関係、大学入試と地学履修、2単位地学の履修効果の各学校での評価、などが話された。

又この他、減単位の問題、地学教員の地学教育の振興、など多くの意見が出され、前向きな姿勢が感じ取られた。

最後に発表者から、このような研究を進めていく先生方の集りを大きくしたい。との呼びかけがあつた。

### <研究発表2>

「時間・空間の概念の育成に関する研究」

札幌北陵 長谷川 吉久

天文教材は、天球から始まつて日周・年周運動と球面座標最後にケプラーの法則で一区切りで、この教材での難易な実習5つを挙げた。

1. “天球儀の利用による実習”天球儀の指導は視覚によつて直観的に理解させる方法をとつているが理解度が良くないのでつと利用度を高めること。
2. “ステレオ投影による恒星図の作成”球面座標の変換を行ない、天空境界線を求めて作図する事により星座や日周・年周運動がかなり理解される。
3. “惑星の視運動”惑星の視運動や太陽との離角の関係だけに止めずケプラーの法則への導入を意図する事。
4. “火星軌道の作図とケプラーの法則”火星の軌道を観測資料から作図し、ケプラーの3つの法則を検証する事。
5. “作図による天体位置の推定”上記の実習を理解した上でケプラーの法則を利用し、離心率と軌道傾斜角をもつた天体を選び、作図を主にして予報位置する。惑星は離心率が小さすぎ、又軌道傾斜角も適当なものがないのでテンペルⅡの彗星を選び予報位置の実習。

以上の様に天文教材のかなり高度な実習の指導法についての説明がなされた。

この発表後討論。尾尻先生から、この教材を扱つての生徒の反応についての質疑があり、離解な教材なのでケプラーが惑星軌道が楕円であることをどうして調べていつたか。又初等的な方法ではあつたが今でも再現出来るという事位に止めるべきでないかという意見が出された。

又その他非常に大切な教材であるから他を省いてもやるべきであるとか、時代の背景を明確にし、ケプラーの法則が発見された過程を取扱うという様な意見が多く出され、天文教材の取扱い方についての論議がなされた。

最後に岡田先生から、48年度用の道版実習書の内容についての報告があつた。

## < 保健体育部会 >

### (第1分科会)

#### ① 「体操の指導について」

網走南 吉田 繁 典

生徒のアンケート結果から興味に乏しい体操の学習に意欲をもつて自発的に学習する態度を養わせることが大切であると考え「学習の目標と学習内容を明確に理解させる」など5項目を設定した学習指導法が提示された。

#### ② 「ライフスポーツをめざした選択種目の授業」

深川西 皆川 澄 夫

体育と生活との結びつきに何が欠けているものがあるとの反省から、45年度より教材の再検討を行ない、生涯教育を目指す「選択種目」の教材を3学年のカリキュラムに設け授業を進めている。その実態並びに今後の課題が提示された。

### < 質疑応答 >

研究発表者の補足説明のあと「年間計画に於ける体操の位置づけ」「体操の動作の名称について」その他2、3の関連事項について意見が交わされ、その後助言者、部長より、夫々の立場から説明があり、会を終えた。

### (第2分科会)

#### ① 「冬期体育授業の取り扱いについて」

北見北斗 佐藤 尚 正

冬期体育教材としてのスキー授業の位置づけや施設設備、学校事情、運動効果等様々な問題点を本校の実態を例とし今後の課題として提起された。

#### ② 「新学習指導要領に基づく保健学習内容の一考察」

札幌南 川上 幸 三

新学習指導要領による保健学習を4つの観点からまとめ現行の保健に見られる問題点、併せて普段の生活に密着した保健学習(生活学習)として位置づけるにはどうしたら良いのか、その他豊富な内容をもつて提示された。



### <質疑応答>

前者については「疲労等による傷害について」・「アルペン主体の授業」・「技術的取り扱い」・「経済面」等また後者については「保健学習に於ける視聴覚機材の使用法」・「移行期間に於ける現1、2年生の取り扱い」・「他教材、特に生物との関連」・「性教育」等について種々な角度から活発に意見が交わされた。最後に助言者より「冬期体育授業について技術的には今のレジヤースキーのレベルで良いのではないが、また大自然に親しむべくツアー等も折り込む事が望ましい。歩くスキーをもう一度見直す必要もあるのではないだろうか。保健学習については今回の資料は随分貴重なものであり、これを土台にして各校の現状にマッチした授業を展開して貰いたい」とのまとめの言葉があり会を終った。

(衛生看護部会)

#### ① 「現場実習に於ける生徒の意識」

美唄聖華 開 米 八重子

現場実習に於ける様々な問題を本校生徒の調査結果から、その実態を分析・把握することにより今後の現場実習指導の資料として提示される。

#### ② 「病院実習の再検討」

美唄聖華 田 村 陽 子

専門教材の中で40%ものウエイトを占める病院実習のもつ問題点を現場生徒の声をふまえて種々な角度から考察した結が提示された。

### <質疑応答>

現場に於ける様々な実態について討論され最後に助言者より「現状をさらけ出して議論したことは貴重であつた。これらのことを土台として今後より良い方向へと進めて行きたい」との結びの言葉があり会を終了した。

[ 講 演 ]

#### 「運動と人間」

教育学博士 岸 野 雄 三 氏

人間の運動形態がどの様に発生し発展してきたのか、動きのポイントをどの面から考察するのか、今日の学校体育の指導にとつて一番基本となるものは何か、人間のフォームが一生の間はどう変わるか、動きの理解はどうあらねばならないか、幼児の運動形態区分、動きの変遷について等豊富な知識をもとに話をされた。紙面の都合上、ここでは特に動きの特徴(1~12)について話されたことを箇条書きにして取り上げてみたい。

- ① 運動というのは、3つの局面からなる。(準備局面、主要局面、終末局面)
- ② 準備局面は主要運動がスムーズに行なわれるようなされる運動である。
- ③ 主要局面に於ける主要運動のフォームを云々する前に準備局面をよく把握し、矯正することが必要である。(結果の指摘より原因の究明)
- ④ 各局面のポイントをしっかりとおさえることが肝要になる。
- ⑤ 3つの局面が切断されることなく、スムーズに流れることが必要であり、局面構造が未分化であると、まとまりのないものとなってしまう。
- ⑥ 連続することにより、局面の融合が見られる。
- ⑦ 運動のリズム、即ち全体の流れの中に強弱があり、それが自然に無理なく進行することが必要となる。(幼児からリズム感覚を養わせること)
- ⑧ 運動のハーモニー形態的に言うと、ひとつの局面に於いて、その動きに統一がとれていること。
- ⑨ 運動の力の入れ方、使い方、どこをエネルギー源としてどの様に各部分に伝動させるか、
- ⑩ ある衝撃をやわらげていく自体の動き即ち弾性を必要とする。
- ⑪ 予測を立て次の動作がうまく行くよう先取りをすること、前の局面が不十分なら、以後の局面をうまく持つて行くよう調節する力、いわゆる調整力、協応性が必要となる。
- ⑫ 見ている安定感を与えるもの(小さなミスはミスとして見せない)としての正確性が要求される。以上これらの動きの形態を充分把握せずに指導することは特に家庭体育、幼児体育、老人体育等に於いて意味

のないことになるのではないか。

<質疑応答>

問…動きの形態から言つてフェントとは何か

答…第1局面の誘導運動をカットし、次の主要運動を先取りすることである。

問…盲学校の生徒の動きは幼児並みであるがそれを直すことは無理なのか

答…リズム感は養えるが、それをフォームとして形態としてとらえることが出来ないのが致命的なものとなる。触覚を利用して、それをどう運動と結びつけていくか、その子供の動きを良く観察して貰いたい。

盛大な拍手をもつて岸野博士の講演が終了。最後に部長より「単なる技術屋としてではなく、人間性を重視した指導、また各人切磋琢磨し、きめの細かい指導を続けて欲しい」との挨拶があり、47年度の体育部会が散会したのは午後3時40分であつた。尚48年度研究主題として下記のものが提示されている。

48年度研究主題(それぞれの学校・個人におけるものが多い)

1. 視聴覚器材を利用した保健指導(北見北斗)
2. 保健体育指導上の諸問題とその研究(琴似)
3. 本校生徒の実態に即した体育学習について(振内)
4. 年度ごとカリキュラムと担当制(啓北商)
5. 新指導要領に基づく学習指導上の問題点(札南)
6. 保健体育科教育のめざす方向(札南)
7. 保健学習の内容と時間配当(浦幌)
8. 新教育課程に伴う授業の在り方(八雲)
9. 冬期体育(十勝)の実態調査(帯三)

<芸術部会>

「芸術教育における創造性について」

作家 沢田 誠一 氏

氏の講演は、氏が道新文学賞を受賞し、直木賞候補作品になつた「斧と楡の棺」が生れる背景を詳述する中で「創造」の意味するものが解明された。

河野、知里両氏はアイヌ語を初めそれに関する学界の両雄であり、両者とも自説を全くゆずらず、火花をまき散す、そのやり取りから「孤独な学問の積み上げがもたらした人間的な歪み、妥協を知らない典型的な人物」を書いてみたかつた。

作品の骨の部分には肉だけ、空気だけででき上つているものの方がいいし、独白体のもたらす効果を設定した。いわば偶然な機会に知里先生を知り、それからかれこれ10年程、自分なりにその人間像を分析し、組み立てて私の小説の骨子とした。5回程書き直し、多数の人の批評ももらつたし、私の個の力ではこの小説は不可能であつた。どうしても知里先生という強烈な個性が必要であつたし、知里先生の語録をかりながら、その内面は会話で書くが、胸の中のどろどろしたものしか書けない。独白は立体的人間になつて、創つていく人には皮膚感のようなものが伝わってくる。結局、素材だけでは作品は書けないし、ぼくらを打つてくるものは、内と外の緊張感に似たものだと思われる。うつ屈して叫びようのないものを原点にする。それを読者にも提供してそれにひき込む。やり場のない哀しみ、淋しさを読者にあんな形で投げ出したかつた。……と結んで、じっくり考えさせられた。

(音楽分科会)

大会要項の中のような研究発表がなされた後、その実践例を、スライドとテープで発表された。スライドは風景、建築物、絵画、人物等で、その音楽とは直接関係はなくてもその音楽に似た印象を受けるもの、又は印象を強めるものを書いて写された。まだ試みはじめてばかりで問題も多くあるだろうから、教えていただきたいとのことだつたが、なかなか立派な実践であつた。

問題点など、参加者および助言者から出されたものをまとめると次のようである。

音楽をきくための動機づけに、このようなスライドを使うことは意義がある。又現代のような映像社会の

中で、音楽だけでささえ切れない面もあるだろう。しかしスライドが固定概念を植えつけるのはいけない。生徒の自由な想像を疎外するような使用の仕方にならないようにして、より高いものをめざすための手段としたい。今こそ鑑賞教育の構造化が必要なのではあるまいか。

### (書道分科会)

#### <研究発表>

帯広三条 近藤 宣治

新学習指導要領に示される目標の達成をめざした指導計画(研究)に基づき、その単元の配列、留意点等を話し合った。

- 単元の配列はたくみにできているが、生徒の創造性をもつと生かす工夫があつてもよいのでは。
- 臨書の択一法は、その指導法のうえで多少の問題も残るが、生徒の興味、教材の整理という面では利点も多い。
- 調和体は、巾広い意味でとらえるべきで、実用的なものから、いわゆる近代詩文体までをさすもので、その指導法には今後の課題として残る面も多い。
- 創造性を培い養う面をより分析し、特に内面的な、創造性をゆり動かすような力に目をむけなければならない。その内面的な力を見出し、育てることこそ、今日の書教育が担なっている一番の課題であろう。

### (美術分科会)

#### <研究発表>

「総合的・科学的な造形思考力を養う紙を用いた立体デザインの指導」 (別紙プリント)

滝川 奈良 孝哉

スライドにより生徒作品(照明器具・記念建造物)の紹介、次いで別紙プリント及び、生徒作品(実物)を含めて説明後、導入より実技指導、評価に亘つて質疑応答。

◎ 北海道高等学校美術工芸履修評定数値集計表 (別紙)

(提言) 月寒 中村 矢一

上記表の分析と情報交換。

◎ 専門部の今後の活動と方向づけ

定員、専任、講師その他の問題について協議

◎ 要 望

全体講演に芸術をテーマとしたものを要望する。

### <英語部会>

会場の旭丘高校講堂にあふれる程の参会者を迎え、昨年に引き続いての主題について熱心な授業、講演、研究発表、質疑応答、助言等がなされた。

#### <I 特設授業>

札幌北 北川 輝彦

札幌北高校2年の、自然学級でありかつ又気心の知れたHRのクラスを使つて、なごやかな雰囲気の中で、言語活動を取り入れ、正月という時期をたくみにこなした素晴らしい授業展開であつた。

#### <II 講演>

「言語、言語学、語学教育」

北海道大学教授 福村 虎次郎 氏

(省略)

#### <III 研究発表>

① "Some Methodological Problems"

札幌西 福原 俊

英語教育の分野において次から次へと多くの教授法が、その長所と短所を持ちながらもあらわれてきたが、

そのいくつかについて、言語理論との関連においてそれらが及ぼしてきた影響という点から、流ちょうな英語で発表された。

② 「新高等学校学習指導要領の実施について」

釧路湖陵 武川 正明

新カリキュラムにおけるいろいろな問題点を整理され、特に言語活動の実をあげるためにどのようなことが必要であるのか、又外国語の選択化の問題についての正しい認識、及び中高一貫の重要性にふれられた中味の濃いものだった。

③ 「『英語クラブ』の指導と実践の一例」

東海第四 外山 正

「英語クラブ」活動を顧問教師と生徒との接触を密にし、好ましい人間関係を育てるように配慮し、適切な指導のもとに、生徒が自発的に、自治的に活動しうるように、過去8年間の精力的な実践のまとめとして報告された。特にクラブ活動に具体的目標を持たせ、活動計画を立てらせ、強制でなく自発的にクラブの運営にあたられた点が特に注目された。

④ 「音声教材を中心にした選択英語の実践例」

札幌啓成 石川 秀夫  
田畑 正男

共同研究されたものを石井先生が代表で発表された。選択英語を当校で設置した理由や、自主教材の変化のある内容や、生徒の中にあられた良い面での変化についての評価がなされ、当校での今後の定着、発展についての問題点が残されているという内容であった。

<IV 部会総会>

事務局（札幌）から次の様な提案があり賛成多数で決定した。

1. 48年度から事務局を札幌にうつす。
2. 新役員の選任は新事務局に一任する。
3. 新年度の研究テーマの提案がないので、新役員会に一任する。

さらに事務局から次の様な連絡、要望があつた。

1. 研究発表は1学期末までに申し出て欲しい。
2. 昨年度の総会時における「部会を普通、実業、定期制の3つと分けた方が効果的ではないか」と提案があつたが、これについては新事務局で引き続き検討して行く。

<農 業 部 会>

<講 演>

「農業教育の近代化と教育課程の改善について」

文部省教科調査官 松下 魏三氏

教育の近代化を進めるために歴史的変遷をながめてみると、今から10年程前に農業教育の近代化がさげばれ、近代化から現代化へ、しかしその中に流れている道は一貫しているなのでその流れをとらえ今回の学習指導要領の改定にもその流れが一貫して行なわれている。

1 教育内容改善の骨子について

- (1) 農業の生産性を高めるための指導
- (2) 近代的な規模や組織につながるような実験実習教育の考え方
- (3) 農業経営の近代化に即応し経営に関する基本的な知識技術を習得させるように教育し指導することが大切である。

2 教育課程改訂の背景について

- (1) 生徒の能力に応じた内容であること
- (2) 21世紀をめざした内容であること
- (3) 全人教育の配慮の必要

### 3 生涯教育の考え方について

教育の生涯化は大切な分野となり、制度化の方向に、そして教育の拡散化(日常化、生活化)と集中化し生活の中にとけこんでいる。又、教育の統合化も年令、教育機関、教育内容の統合を体系化し構造的にとらえなければならない。

### 4 高等学校における農業教育の重点

- (1) 基礎的な教育の充実 — 専門教育の基礎を正確に指導し応用力を育て — 展移する可能性のある教育を旨ざしてもらいたい。
- (2) 農業者としての必要な専門教育と一般教育の充実をはかり(一般教育とは教養、基礎的な技術、経営能力の育成)等を含め改訂する必要がある。

### 5 教育の現代化の考え方について

- (1) 目標の具体化をはかるためには、理念的目標、教育手段の目標、構造的目標、方向をみいだすための目標、評価、反省、と適確にとらえる。次に、
- (2) 内容の現代化についてであるが、①教育内容の精選。本質をつかみ、一貫した流れを連続的にとらえる。②教育内容の構造化。中心になる柱をしめし次に数本の柱をしめす。いわゆる組み立て方の学習が大切である。
- (3) 教育方法の現代化。①記憶学習から思考学習へ、各生徒に考えさせる指導を、原理や原則を整理し、能力に応じた教育を ②模倣学習から創造学習へ、能力に応じて開発させ学習効果のあがる工夫が必要 ③教授法についても学習の社会化から個別化へ

### 6 農業の社会的、経済的意義

国民生活の基盤をつちかう重大な使命のあることを忘れてはならない。

- (1) 国民の食料を持続的、安定的に供給し、国民の生活環境を緑化し、国土を保全する。

### 7 内容の精選について

- (1) 農業の本質についての理解にあたっては生き物対象であり、成長増殖の利用にある。
- (2) 農業技術の理解、①技術の区分、生物の生命体を調節する技術で、物理的、化学的、生物学的に区分し理解を深める要あり、又、②農業技術との調節は物理的(日長、温度、中耕)、化学的(chemical control)等が今後の方向となろう。

今後の課題として次の4つをあげたい。

1. 勤労教育、実践教育を大切にしたい。
2. 教材研究が非常に大切で、校内研修等により資質を高める。
3. 実験実習の指導を大切にし、正確に積み上げ、特に経営学習との結びつきについて研究を深め指導願いたい。
4. 学校農場の運営の問題をご研究いただきたい。

## <家庭部会>

### <講演>

#### 「人間形成の立場からみた保育」

藤幼稚園園長 宇山 銈子 氏

幼児教育は生きて行くための土台を作り、将来伸びて行く素地を作るものである。まず幼児をどの様に育てるかと言うと、お互いを「信頼」すると言うことが出発点で、そのためには、愛されていると言う気持を育て、そこから発展して、人を愛することの出来る人間、自立して行ける人間、他人のために働ける人間に、又安心した気持を持たせる、安心して環境から伸びて行く、落ち着いていると興味を持つ、根をおろすと自分で伸びて行く、このくり返しが円満な人間になつていくので、良い環境をととのえてやること、幼児の特徴を知り、保育者として子供の成長を助けてやるためには、どんな心で接しなければならないかを知ることが大切である。保育者が常に成長する様に努力することが必要である。

上記の講演が行なわれた後質疑が行なわれた。○良い環境を持たなかつた子供は、どう扱つたら良いか。  
○保育を教えるに当つて、どんなことを心がけねばならないか。○欲求不満から来る不適応行動に、どの様

に対処したら良いか。○早期教育について ○戦後教育をうけた父母に希望することはないか等の質問があった。

<研究発表>

「保育」における自主学習指導のこころみ（家庭一般）」

札啓成 長谷部 澄子

核家族化が進み、人間育成の軽視が問題になつている現在、家庭科学習における保育の価値は大きい、そこで将来への希望を育てるために自主学習指導をこころみた。種々の実態調査を土台にして学習の目標を設定し、自主学習の計画を立て、授業の中に発表を折り込む様授業を進めた学習展開。評価について発表があり質疑がなされた。

- 生徒自身の自己評価について
- 生徒が発表した後の教師の助言について
- 保育を履習する前にテーマを決定させることについて
- 自主学習とH・Pの関係について等の問題点が出された。

<報告会> 昭和47年全国産業教育指導者養成講座（保育）報告

(1) 愛育病院院長内藤寿七郎先生の講演「最近の育児」より

江別 星 信子

- 育児とは0才から20才までを担当する学問である。次の3つの時期1、新生児期 2、精神的離乳期（1～2才） 3 思春期が大切である。
- 保育にあたって母性愛が大切な条件なのでこれを育てて行く様努力しなくてはならない。さらに母乳で育てることがいかに大切か再認識する必要がある、又出生直後の沐浴は、さけた方が良く、子供は3カ月から抱きぐせがつく、排出のしつけは、おぼえる時期が来なければ出来ない。又子供は2才までは施設病にかからないということ。そして正しい育児態度で子供にのぞむことが大切である。

(2) 東京学芸大学教授宇賀神ふく氏の講演「保育の指導」より

岩見沢西 小河 恵美子

- 保育は人間開発でなければならない。
- 人間の生涯のうちで、心身発達の最も旺盛な乳幼児期の生活が生涯を支配することを考えると、家庭科の保育は家庭の本質的な機能として取り組んで行かなくてはならない。
- 保育指導では、常に具体的な扱い方が必要であり、又実習に当つては、ただ機械的に技術だけを教えるのではなく、モデルになる子供の成長をふまえて、母親と共に行なう。

<助言者> 沢井指導主事

- 保育は観察や自主学習を通して、生徒と共に考える学習であつて欲しい。
- どうしたら興味を持つて学習させることが出来るかと言うことを考えて、形にとらわれず進めて欲しい。
- 何ごとも、自分だけで行なうのではなく、お互いに研究したものを出し合い、与え合つて皆で高まつて行くことが大切である。

<工業部会>

<講演要旨>

「工業の教科内容の精選と構造化について」

文部省教科調査官 関口 修氏

1. 精選の意味とその必要性
2. わが国の教育様式の変遷
3. 一般の期待にこたえる学校教育における内容・方法の整備
4. 今日の学校教育の基本的構造と問題点
5. 工業教育技術教育の特質と指導
6. 工業と技術教育との相関

科学・技術の進歩発達による教育内容の質的・量的な拡大と、高校進学率の急激な上昇による学習者のシデネスの多層化により、学習指導要領の改正を行なつたのですが、これからの技術教育は、指導内容を

精選、構造化して実験実習に重点を置き、情報処理技術を併用して指導して行くべきだと思います。

#### <研究発表の要旨>

「科目『電気機器』の内容の精選および学習事項の定着をはかる手法」

富良野工業 角田輝康

ブルーナは1960年、「教育の過程」によつて極めて重要な教育上の提案を行ない、教育に関係する多くの人々の注目を集めた。

私たちが教育内容や学習指導について考えを進めるとき、心にとめておかなければならない重要な課題がある。それらをあげると、

1. 学問の構造の強調
2. 認識能力の成長に関する心理学理論
3. 新しいレディネス観とらせん型カリキュラム
4. 直観的思考の重要性

「構造」とは何か、まだ十分に解明されていない実情である。そこで、日常の授業を通し「電気機器」の中の変圧器について実践した。私のやり方は指導内容をシート化し、小テストにも転用して学習事項のまとめを行なうとともに、生徒の励みになるよう期待しながら、評価に役立たせようとするものである。

「教育内容の『構造化』について」

釧路工業 宝金克威

最近使われている精選、構造化などの言葉はあいまいな使われ方をしている

そこで教育の現代化という広い視点にたつて、次のような内容について研究考察した。

1. 「構造」の意味

構造とは部分と全体のばらばらでない関係であり、部分の全体に対する機能であり、全体としてのまとめである。

2. 「構造化」の意味と「構造化することの意味と型」について

「構造化」とは固定的なものではなく、弾力性をもっているもので、実践を通しより強い構造をもたせるようにすべきである。

3. 専門教科における構造化の考察

ア 総合的立場で上から下への道をとつつ実践的に目標→内容→教授学習過程の構造化をはかる。

イ 内容＝知識・技能の基礎的概念の析出を行なうと同時に基本的事項を抽出する。

「精密工作実習外の構造化から」

北見工業 小山国太郎

教育工学とは、諸種の工学的手法と考え方をとり入れ、教育の最適化を図ろうとすることで、学習を行動の科学としてとらえる手始めとして、教授—学習過程の構造分析に力点を置いてきたが、目標行動の構造分析の結果がおのずから指向するのが教授—学習過程の構造化であるように見える。精密工作実験のうち「万能投影機による測定」を例に時間の流れ型に沿った直線型の構造が実際的であると考え、目標行動の分析から教授—学習過程の構造分析へと進み、コースアウトラインを構成する方法をとつた。小单元ごとの構造を重合させると機械実習の全体構造になると予想し、更に座学的単位の構造と重合させると教科、機械の全体構造となると予想する。この過程で必然的に精選がはかられるとしたい。

#### <商業部会>

本年は新教育課程実施の年にあたるが、昨年暮発表された文部省の「中・高校の進路指導に関する調査結果」が商業教育に大きな波紋を投げかけている中で今回は商業教育現代化のための具体的問題点がとり上げられた。全体会議と4分科会の概要は次の通りである。（発表要旨は別紙配布資料参照のこと。）

##### <全体会議>

はじめに挨拶があり、道高教研友田商業部会長は「教科における現場の学力向上のためには我々教師が自覚をもち研究していかなければならない。この大会を有意義で効果的に運び明日の教育への手がかりをつかんで頂きたい。」と述べ、また道教委古室指導主事は、「さきの文部省進路指導調査結果が商業教育に大き

な波紋を投じたことの原因の一つとして特に商業高校における専門性が他の職業学科（農業・工業）に比して稀薄である」とし、こうした難局打開に焦点をあて今後の方向づけを論じ合うよう訴えた。続いて校長協会相沢商業部会長は「夏の研究集会と今回の研究会は相互に補完し合う関係にあり、この両研究会をどう有機的に関連づけるかが大きな課題である。」と述べられ講演に移った。

◎講演

「商業教育のあり方を求めて」

商業教育対策委員長

旭川商業校長 二階堂 文雄氏

文部省の「進路指導に関する調査結果」をもとにして、(1)生徒の入学動機および現在の状況についての考察、さらに(2)旭川商業およびN商業における同上項目についてのアンケート結果を発表、ついで商業教育対策委員会の討議（中間報告）をもとに今日考えられる商業教育に関わる諸般の問題点を浮彫りにすると同時に、高等学校における商業教育の必要性を学校・制度・商業高校の三面から究明し今後の商業教育のあり方について問題提起がなされた。商業教育のビジョンの追求、ビジョン成立のための条件、さらに商業教育振興対策と将来構想についての具体的説明は時間の関係上別の機会になされることになったが、時宜を得た示唆に富む内容であった。

<第1分科会>—教科指導法について

(研究発表)

- ・「生徒の興味、関心を喚起するため教科内容と授業のあり方はいかにあるべきか」  
美唄南 中村 誠二
- ・「商業一般の指導法について」（定時制課程普通科における）  
大成高 松永 千里
- ・「商業の機能を生徒に理解させるにはいかにすべきか」  
中川商 久保 敏人
- ・「商業一般において実務的学習分野をどの程度とり入れて指導するか」  
北見北斗 高谷 嘉浩・青島 繁

<第2分科会>—進路指導について

(研究発表)

- ・「職業高校における進学問題についての一考察」  
稚内商工 松岡 晃
- ・「商業高校における大学進学者の問題点について」  
札幌東商 田沢 貢
- ・「本校における商業科生徒の大学進学の実態とその問題点」  
富良野 石川 博
- ・「本校における進路指導の現状」  
虻田商 佐藤 純生  
(代理) 松田 忠尚

<第3分科会>—商業高校における女子教育のあり方について

(研究発表)

- ・「本校における女子教育の実態」  
苫前商 工藤 哲一
- ・「本校女子生徒の商業科に入学する動機とその過程について」  
千歳高 平岩 重信
- ・「ほんとうの商業教育を求めて」  
帯広南商 和泉 伸明  
佐渡 義博  
多田 直治



<第4分科会>—今後の情報処理教育のあり方について

(研究発表)

- ・「商業科における情報処理教育と情報処理科目取り組みの基本姿勢」

旭川商 阿 部 照 彦  
高 橋 一 雄

- ・「商業科における電子計算機教育について」

下川(代表) 長 田 友 秀

- ・「本校の情報処理教育について」

- ・「情報処理教科の指導について」

室蘭商 森 下 繁 義

奈井江商 三 浦 秀 雄

(注) 各分科会の協議内容については、指定枚数の関係上割愛せざるを得ませんでしたので内容を知りたい方は商業部会事務局(小樽商業)へご連絡下さい。—記録者

<水 産 部 会>

<講 演>

「70年代の産業動向と実業教育」

北海道大学経済学部教授 真 野 脩 氏

70年代の産業はどのような方向にあるか、そしてそれに対応する実業高校の位置づけはどうあるべきか。昭和45・46年は公害問題・消費者問題そして貿易黒字からドルショック等日本経済第二の曲り角となった。即ち労働力不足・資源不足・環境・市場・技術の5つの壁の為、日本経済の方向転換が余儀なくされた。日本経済発展の為にどう対処すべきか。

1. 労働力の省力化・機械化
2. 知識集約型産業の開発
3. 環境の保全
4. 国内市場の開放(国内産業の方向転換)
5. 自己技術の開発(応用技術の開発)

等が考えられた。特に日本経済の今後は生産志向型から分配志向型への方向で需要を創造しなければならない。管理体制は従来の経済人モデル的思考方を脱却し、現代人モデル的思考で進まねばならない。更に、管理組織の中にあつては専門的知識も不可欠であるが、他に依存できない一般能力、即ち個人のもつ不安に耐える能力を養うことが大切である。

実業高校の場にあつてはこのような社会の背景をとらえて専門的知識を理解させることは勿論であるが、人間としての一般能力を養うことが一つの方向として位置づけられるのではないか。今後は、いかに具体的に展開し人間育成に当らなければならないかを研究して欲しいものである。

<研究発表>

- ①「戸井高校の教育目標設定まで」

戸 井 山 内 正 明

- ②「漁業科における漁業従事者養成対策の経過について」

小樽水産 小 西 康 隆

- ③「漁業経営科における総合実習について」

南茅部 荻 原 神 一 郎

恵山 小 田 貞 雄

- ④「ニューファウンドランド沿岸における1972年度帆立貝養殖試験報告」

厚岸水産 伊 藤 一

<質 疑>

1. 現行教育目標との差異について  
(戸井高校に対して)

2. 漁業経営科の総合実習における乗船実習の内容について  
( 恵山高校に対して )
3. 漁業経営科の総合実習における潜水実習の安全指導にどう対処しているか。  
( 恵山高校に対して )

<助言者挨拶>

北海道教育庁指導主事 石橋 政雄

今後の研究会のあるべき方向と思う。学校内だけにとどまらず、辺地校における学校間の組織だつた研究実績の意義は大きい。

カナダにおける研修は州政府からの要請もあり、今後も続けたい。

昭和48年は学習指導要領の改訂期でもあり、各学校間の連絡を密にして今後のより一層の発展を希つて

いる。

水産部会総会

1. 研究テーマについて
2. 部会に対する要望事項
3. 48年度役員の留任承認

<事務局より>

第10回高教研大会兼創立10周年記念大会の成果特集号としての「会報18号」を、本日会員の皆様のお手元にお届け出来ますことを、事務局編集部と致しましては大変嬉しく存じます。内容を御覧の上、今一度大会当日の感激をお味わい下されれば幸いです。

尚、編集部と致しましては、各教科別研究集会における各部会の研究資料を、寄贈された分につき年度別に保存させて頂いて居りますので、御利用の方は編集部まで御連絡下さい。

最後に、各部会記録担当者の先生方に厚くお礼申し上げます。

( 編集部一沢田 )